

# パンデミック時代における アート・ミュージアム・インタラククション

新型コロナウイルスの世界的流行により、不特定多数の人が集まる場であるミュージアムは、2020年春先から断続的に閉館や展示の中止等の対応に追われた。

本シンポジウムは、芸術学、社会学、博物館学の各専門家と学芸員およびアーティストによる、パンデミック前とパンデミック後のアート・ミュージアム・インタラククションの変容を検討し、新たな方法論の提案を試みる。

2021年3月26日(金) 17:00 - 21:30 Zoomウェビナー

挨拶 17:00-17:05

総合司会 ● 山崎敬一(埼玉大学人文社会科学部研究科・教授)

第1部 17:10-18:45

## 「観客と共創する芸術」

司会 ● 浜日出夫(東京通信大学教授)、池谷のぞみ(慶應義塾大学教授)

1. アイトラッカーからみる臨場感 — インタラクティブ・アート鑑賞実験  
加藤有希子(埼玉大学基盤教育研究センター准教授)、井口壽乃(埼玉大学人文社会科学部研究科教授)、陳海茵(埼玉大学研究員)
2. Art appreciation via the Internet — Focusing on remote viewing experiments of plays directed by new media art  
(インターネットを介した芸術鑑賞 — ニュースメディアアートで演出された劇の遠隔鑑賞実験を中心に)  
児玉幸子(電気通信大学准教授)、ピュールク・トーヴェ(埼玉大学人文社会科学部研究科准教授)、小林貴訓(埼玉大学理工学研究科教授)
3. Mobility and appreciation(移動と鑑賞)  
山崎晶子(東京工科大准教授)、山崎敬一(埼玉大学人文社会科学部研究科教授)
4. Recruited Guiding  
荒野侑甫(埼玉大学学術研究員)

第2部 18:45-20:35

## 「アート・ミュージアム・インタラククション」

司会 ● 山崎晶子(東京工科大准教授)、西澤弘行(常磐大学教授)

1. 世界をつなぐユニバーサル・ミュージアム — 「触」の大博覧会開催の意義:  
The Universal Museum Creates a World without Borders : Exploring the New Field of Tactile Sensation  
広瀬浩二郎(国立民族学博物館准教授)
2. Visitors' Interaction in Museum and Augmented Reality : the Ikonikat 3D Experience at the Louvre-Lens Museum  
Mathias Blanc (Associate Researcher, Ecole du Louvre)
3. Experiencing Art in Interaction  
Dirk vom Lehn(Academics . Reader in Organisational Sociology, Kings College London)

第3部 20:40-21:30

## 全体討論「パンデミック時代のアート・ミュージアム」

司会 ● 加藤有希子、陳海茵

指定討論者 ● 柳沢秀行(大原美術館 学芸統括)、暮沢剛巳(東京工科大学教授)

【主催】 埼玉大学

【共催】 「観客と共創する芸術」 課題設定による人文学・社会科学振興事業

「パンデミック時代における協働の諸方法研究会」

共催 「多文化社会状況における多人数相互行為の解明に基づく多文化社会対応システムの構築」 科学研究費国際共同研究強化 (B)

共催 「人間とロボットの共生のための社会学的ロボット学」 科学研究費基盤研究 (B) 代表・山崎晶子

共催 「高齢者や故郷を離れた人々の日常性と共有性を支援するシステムの社会学的工学的研究」 科学研究費基盤研究 (A)

申し込み期限 ● 3月19日(金)、申し込み方法 ● Google フォーム